



帝京平成大学 オープンキャンパス

薬学部

楽しく学ぼう！

2025 07 19

模擬授業

体験実習

オープンラボ

ガイド

薬学部・オープンキャンパス タイムスケジュール

- ◆ 薬学科の説明（是非ご参加ください）（3階 303教室）
10:05～10:25 12:50～13:10
- ◆ 模擬授業（3階 303教室）
「薬を知るにはまず基礎から ～人間だって生物です～」
10:25～10:45 13:10～13:30
- ◆ 薬育デモンストレーション（3階 303教室）
「実際の“薬育”の様子を見てみよう！」 10:45～10:55 13:30～13:40
- ◆ 体験実習（3階 318教室） 時間予約制：303または318教室で整理券を配布します。
「軟膏の混合調剤を体験してみよう！」
11:10～11:40 / 13:00～13:30 / 13:30～14:00 / 14:00～14:30
14:30～15:00
- ◆ 体験実習（4階 436教室 SGDルーム）
「薬剤師の仕事体験（実習）」 10:00～15:00
 - 1) ロボットシミュレーターを使って、フィジカルアセスメントを体験
 - 2) Webシステムを使って、オンライン服薬指導を体験
- ◆ オープンラボ（4階 417研究室）
「タンパク質を見てみよう」 10:00～15:00
- ◆ 学生交流・進学相談（4階 436教室）
「薬学部のこと、薬剤師のこと、なんでも訊いてみよう」 10:00～15:00
- ◆ 学生トークライブ（1階 104教室） 12:35～13:05
薬学部の学生が参加します。
- ◆ 薬用植物園見学（7階 エレベーター横） 10:00～15:00



模擬授業

10 : 25-10 : 45 13 : 10-13 : 30

303教室 (3階)

薬を知るにはまず基礎から ～人間だって生物です～

薬学は単に薬の知識を扱うだけでなく、人々が健康に生きていくことを支えるために、臨床の場や研究、地域医療など幅広い場面に応用する学問です。このため、薬学部で学ぶ学生にとって、生物・化学・物理・数学・英語といった基礎系科目の修得は、薬剤師としての専門性に直接つながる土台として、とても重要です。

生物学を学ぶことで、有害な作用も含めて薬物が体内でどのように作用するかを正しく把握する力がつきます。さらに最新のバイオ医薬品やゲノム医療に対応するため、研究開発の場面で生物学の理解力が求められます。また化学を通して物質の性質や化学反応を理解することは、薬の開発や品質管理、作用機序の説明などに応用できます。化学と生物は薬を理解する核となる分野なのです。これらに加えて、生物学的あるいは化学的な性質や現象を観測して理解するには、物理学を応用した測定と数学的なデータ解析も欠かせません。

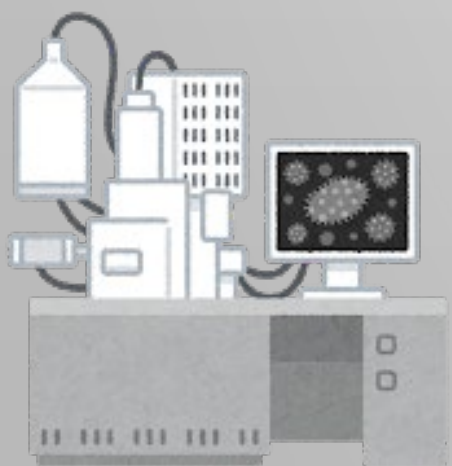
英語は国際的な情報収集および発信を行う力として重要です。医薬品関連の最新研究は、たとえ日本で得られた成果であっても英語で発表されることが多いためです。この数年で回復したインバウンド需要もあり、臨床の場で英語でのコミュニケーションを使う場面も増えています。

本学では、1年生から基礎系の科目をしっかりと学ぶためのカリキュラムを組み立てています。授業や実習に積極的に出席して、薬学で身につけるべき知識や技能の下地を作っておきましょう。

担当教員：平 郁子 (抗体DDSユニット 所属)

担当科目：薬物治療分野、英語科目 (1～4年)

研究分野：組換えビフィズス菌を用いた薬物送達法の開発



“薬育”デモンストレーション 実際の“薬育”の様子を見てみよう！

会場・時間

学科説明会場(3階303教室)
第1回10:45~/第2回13:30~
(学科説明、模擬授業の後、10分間で行います)

- 現在薬剤師は、地域住民の予防や未病に積極的に係る健康サポート役割が求められています。
- “薬育”とは、薬学生が小中学校や高齢者施設等へ赴き、医薬品の適正使用や薬物乱用防止など健康な身体をつくるための教育活動です。
- 本学では2018年に開始し、2021年からは地域連携部の学生を中心に、継続的に行っています。
- 2年生後期のセミナー科目でも、学生同士で行う“薬育”を取り入れています。
- 実際に学生が行っている様子をご覧ください！



- 担当 薬育・地域連携委員会 地域連携部

体験実習 軟膏の混合調剤を体験してみよう！

会場・時間

調剤実習室（3階 318）

11:10～11:40 / 13:00～13:30

13:30～14:00 / 14:00～14:30 / 14:30～15:00

時間予約制：整理券を配布します

- ・薬剤師は、処方箋に基づく調剤を行う際、錠剤、散剤、水剤、外用剤など様々な剤形を扱います。
- ・調剤は、製品をそのまま使用する場合と、複数の薬剤を混合して包装したり、容器に充填することが必要な場合があります。
- ・今回は、軟膏をへらを使って混合し、容器につめてみましょう！



- ・担当 薬学臨床教育研究センター
社会薬学教育研究センター

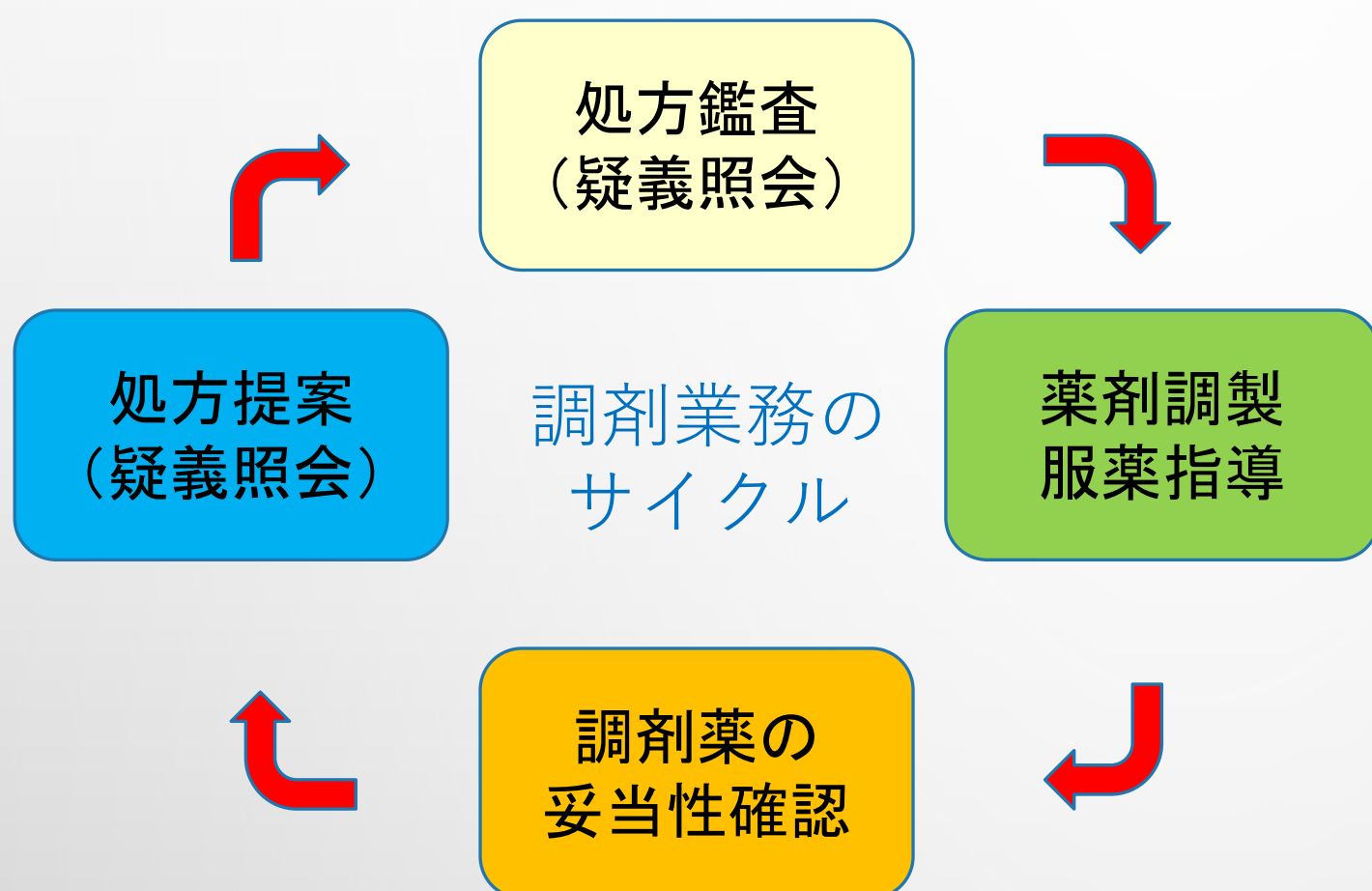


薬剤師の仕事体験（実習）

- 1) ロボットシミュレーターを使って、フィジカルアセスメントを体験
- 2) WEBシステムを使って、オンライン服薬指導を体験

会場：SGDルーム（4階 436）

フィジカルアセスメント体験：薬剤師が視診や聴診、触診などによって患者さんの 全身状態を評価すること、いわゆる「フィジカルアセスメント」を行うことにより、副作用の防止や薬物療法の効果の判定に寄与することが出来ると期待されています。



お薬はちゃんと効いているのか？
副作用は出ていないか？

薬剤師からの聞き取り
患者さん自身の訴え
患者さんの外観
臨床検査の値

基本的項目



薬剤師に求められる新たな技術

皮膚の状態、むくみ、脈拍
呼吸の音
心臓の音
お腹の音

フィジカルアセスメント

オンライン服薬指導体験：感染などの状況があっても薬剤師と患者の信頼関係を常に継続することが可能となります。



担当教員
島崎 学, 宮崎 生子,
平 郁子

オープンラボ

薬学のラボを体験しよう！！ タンパク質を見てみよう

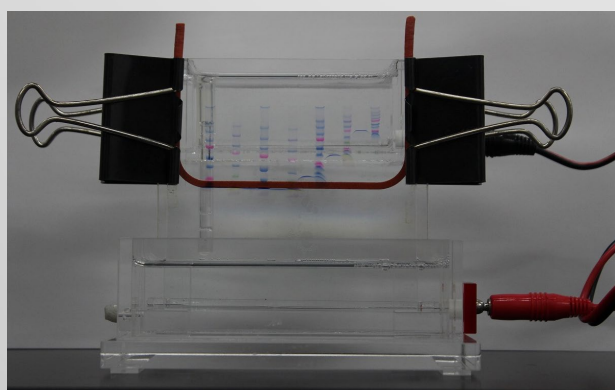
会場・時間

専門ラボ5（4階 417） 10:00～15:00
（見学随時）

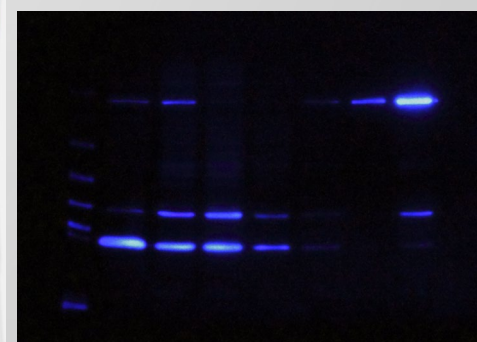
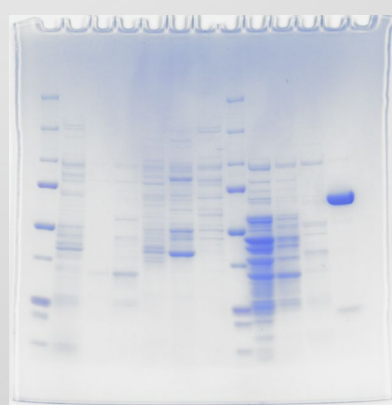
- ・ ヒトの体を構成する重要な成分にタンパク質があり、約10万種類のタンパク質が存在すると考えられています。
- ・ 私たちのラボでは唾液中の細胞外小胞の働きを調べています。この小胞には100種類以上のタンパク質が含まれているので、その中から感染症と戦うタンパク質や疾患の目印になるタンパク質を探しています。
- ・ 今回のオープンラボでは①電気泳動やカラムクロマトグラフィーによるタンパク質の分離、②特定のタンパク質の発光による検出などのデモを行いますので、普段の研究を体験していただきたいと思います。



タンパク質分離用カラム



電気泳動装置



タンパク質の検出

担当教員

膜機能ユニット 矢ノ下 良平
小川 裕子

おすすめコース

Aコース

調剤体験(318)



学生交流・相談(436)



フィジカルアセスメント体験
(436)



オープンラボ(417)



薬草園
(7階エレベーター横)

Bコース

薬草園

(7階エレベーター横)



オープンラボ(417)



学生交流・相談(436)



フィジカルアセスメント体験
(436)



調剤体験(318)

※調剤体験は時間予約制です（整理券を配布します）。

時間：11:10～11:40 / 13:00～13:30 / 13:30～14:00 / 14:00～14:30 / 14:30～15:00